

商いと地域コミュニティの融合 高校生が商売の腕を競い合う「商い甲子園」

全国「商い甲子園」実行委員会 実行委員長 松本 健



商い甲子園とは

安芸本町商店街のある安芸市は、人口約1万7千人の高知県東部の中核的都市であり、三菱財閥の創立者である岩崎弥太郎の出身地です。当商店街では、平成20年から毎年、高校生に「商い」の面白さや大変さを学んでもらうとともに、それぞれの地域が活性化されることを願い、商売の腕を競い合う全国「商い甲



店舗の様子



販売する高校生

子園」大会を開催しています。

出場した高校生は、チームごとに設定したテーマに沿った商品販売を行います。これを商店主や商業アドバイザー、会社経営者、大学講師などの審査員が、商品知識やブースのレイアウト、接客マナーなどを審査し、順位を決定します。商店街の活性化イベントとして、ゼロから始めた商い甲子園ですが、様々な企画を盛り込みながら、安芸市の夏の恒例イベントとして成長してきました。



会場の様子

商店街を交流の舞台に

第5回大会までは手探り・手作りで大会を作り上げてきましたが、第6回大会から高校生との交流を意識した3つの取り組みが始まりました。

① 民泊交流事業

高校生と安芸市民が交流して楽しい思い出をつくらせてほしいとの思いで、商い甲子園の前日に地元食材を使った料理体験と市内の家庭で宿泊する「民泊交流事業」を行っています。平成30年の第11回大会では6高校の生徒・先生48名が13世帯で宿泊しました。



料理体験する高校生

② 商い実践講座

商い甲子園の前日に、商店街の商店主などがそれぞれの仕事・経験を活かして講師となり、「商品撮影講座」、「POP作成講座」、「スキンケア講座」、「接客講座」などの各種講座を



スタジオ体験する高校生

行っています。第11回大会では7高校62名の生徒が受講しました。

③ふりかえりイベント

高知大学地域協働学部の企画・運営のもと、高い甲子園の全プログラム終了後に、出場した生徒がグループに分かれ、グループ毎に配置した大



今の気持ちを一文字で表現する高校生

学生、高い甲子園スタップのナビゲーターが中心となり、ワークショップを行っています。

また、愛媛県立東温高校から高知県立安芸桜ヶ丘高校に陽光桜の苗が寄贈されるなど、高い甲子園がきっかけとなった交流も芽生えています。

高校生が作る高い甲子園へと変化

第1回大会からの常連校である東温高校、高知県立山田高校、安芸桜ヶ丘高校など、たんに出場するだけでなく、様々な形で高い甲子園を盛り上げていただいています。

・東温高校は、毎年、大会前日に生徒が安芸市民に手作りうちわを配布し、会場へ足を運んでいただくよう呼び掛け

てられています。この動きは他の出場校にも広がっています。

・山田高校は地元の伝統工芸品・フラフ（大旗）を用いた地域活性化プロジェクトに取り組んでいます。同校の提案でフラフをお借りして会場の主要なところに設置したところ、前向きで明るい会場になりました。

・安芸桜ヶ丘高校は、大会ポスター、ステージ看板などを作成し、地元の高知県立安芸高校とともに、大会当日には、会場設営、受付、入場行進、司会、審査、昼食（ちりめん丼）の準備等々、多くの役割を担っています。

・愛媛県立西条高校からは、会場における各チームの店舗位置を決める抽選会を事前に実施する（それまでは大会当日受付時に実施）ことの提案がありました。これを実施したところ、販売競技開始前の混乱の解消、抽選会を通じた大会告知、出場校への作戦材料の提供など大きな効果が出ました。

「高い甲子園」を地域課題に取り組みきっかけに

高い甲子園は、販売実習の場や地域資源を活かした商品開発の一環としてのマーケティング調査の場、さらには高い甲子園仕様の販売戦略を実践する場として位置付けるなど、それぞれの学校がいろいろな想い、狙いを持って大会に出場

しています。

大会の始まった当初は、商品を仕入れて販売することが主流でしたが、実演販売や地域企業とのコラボ商品の開発販売、さらにはそれぞれの地域課題の掘り起こしや魅力発信をテーマとするお店の出現など、回を重ねるにつれて、商品・サービスの内容が変わってきました。

高い甲子園は、長年実施していた商店街イベントのマンネリ化を打破したいという意識があった12年前、商店街理事の会合の席で「いつそのこと、高校生に盛り上げてもらってはどうか」との声があがり、企画が始まりました。そのときは「高いの神様とも言われた岩崎弥太郎の商人魂を商店街の皆で高校生に教えてやろう」という想いがありました。今は活発な高校生、素晴らしいアイデアを持った生徒たちから、私たちが元氣をもらい、教わっている状態です。

安芸市や安芸本町商店街にも多くの地域課題があります。高校生の姿勢、取り組みに触発されて、私たちも成長していかなくてはと再認識する場が「高い甲子園」です。ある高校の先生から聞かれました。高校生が高い甲子園に出場することで、安芸本町商店街はどのように変わりましたか？高校生は貢献出来ましたか？

この答えを見つけるには、現状に満足することなく、これからも実践とふりかえりが必要だと考えています。

